

表-19 ウシエビ産卵例

	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5
採集日	7/2 250g	7/30 287g	8/8 268g	9/17(眼柄切除)	9/28 336g
産卵日	7/3	3/31 一部産卵	8/4	9/18	9/29
産卵数	-	-	-	100万	180万
ノープリウス数	50万	3万	60万	500 (0.05%)	115万 (63.9%)
水温	29.0	29.8	29.2	29.8	29.5
塩分	34.8	34.5	34.4	34.8	34.3
経過	ケイ藻の準備が間にあわず7/11ゾエアIIで全滅	1.7万のノープリウスを一元水産へ移動、ゾエア1万を得る。P20の生産は、5,000尾	1トン水槽3面でP20 10,000の生産(一元水産)0.5トンの水槽に5万のノープリウスを入れP20を550尾生産(水試)	ゾエアIIで全滅	0.5トン水槽4面使用各々15万づつノープリウスを収容。10/4ゾエアIIでへい死が多い。10/5 0.5トン当り1,000尾のゾエアIII水温の低下(25~27)10/6ほぼ全滅

IV 要 約

- 1) ウシエビは広塩性で、養殖適塩分濃度は10~30‰である。
- 2) 換水量が $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{2}$ の場合の極大放養密度は650g/m²、換水量 $\frac{4}{5}$ の場合は750g/m²で、500g/m²以上になると生長が低下する。
- 3) 沖縄で天然エビの産卵が初めて確認され、少量ながら種苗生産に成功した。又、眼柄切除法により産卵させることができたが、ふ化率は低かった。
- 4) 養殖エビを用いて、眼柄切除によりある程度の卵巣の発達をみたが、産卵するには至らなかった。それは供試エビが小さすぎたためと思われる。

V 今後の問題点

- 1) 養殖技術に関し、底質、水質、池の広さ等の飼育成績に対する影響を明らかにすること。
- 2) 商品エビの輸送技術の検討。
- 3) 大型サイズ(50~60g)までの養殖技術の検討。
- 4) 天然エビの眼柄切除及び無処理群による母エビ養成。
- 5) 養殖エビの眼柄切除法による母エビ養成(エビの大きさ、照度、餌料等の比較検討)。
- 6) 卵巣の発達過程及び吸収過程の組織学的及び生理学的究明。